

---

# マジで恋する5秒前。

あずまひとみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マジで恋する5秒前。

### 【Z-ONE】

N7153C

### 【作者名】

あずまひとみ

### 【あらすじ】

ウザイ。キモイ。が口ぐせの冷血漢と、言葉が古いバカ女。無口×鈍感の、テンション高めな10v estory。

「お願い……」  
「ああ私は……」

「今日1日だけでいいから……」

「なんてことをしてしまったのだら、」

「私の彼氏になつて……」

「よりもよつて、飛鳥にこんなお願いをすることになるなんて。

「……帰れば？」

「そうくると思つた……！」

ことの発端は2日前、中学の時の友達からの電話だった。

『私彼氏できたの！ も～ラブラブッ』

『マジ！ ？おめでとー！』

『ありがとう。ところで琉依は？』

『えつ何が？』

『彼氏！ できたの？ ……ああ、無理だよね、琉依は。だつて  
ここで力チンときた私は思わず口走つていた。友達の言葉を  
最後まで聞かずに。』

『私だつているからー！ 彼氏！ なんなら会わせてあげよつかー…？』  
言つてしまつてから後悔の嵐。

『…………マジで？』

『マジで…！』

『じゃあ…会わせてよ。あわての田曜日、いつものファミレスで。

11時ね』

『分かつた11時ね…！』

勢いのまま電話を切つたが、よく考えたら私は彼氏などいない。  
よく考えなくとも彼氏などいない。そもそも生まれてこの方出来た  
ことがない。

焦つた私はとつたに想い浮かんだこの男 …… 田の前でいやそ

」にしている、幼なじみの飛鳥に彼氏役を頼みにきたというわけだ。

現在時刻は9：30。

土下座までしているのに飛鳥は首を縦にふらない。 いい加減ム

カツく。

「いいじゃない……会つてる間だけなら……」

「…………」

「無視してんじゃないわよ……」

「はあ～…………」

「……OKしてくれる……？」

「…………うざつ」

「…………ツツ……もーいいよつ！ 帰るツ！」

あんたなんかに頼んだ私がバカでした！！ 」の冷血人間！！  
そもそもコイツは昔からこーゆー奴だ。人が困つてる姿を見て楽  
しんでんのよ！！ 「じゃーねツ！」

乱暴にドアを閉めて階段をかけ降りる私の背中に、飛鳥の声がか  
かつた。

「待てよ。やつてもいいけど」

「……ホント？」

「ああ。その代わり……」

「“昼飯おごれ”ね？ 任せて！」

「…………じゃあ時間になつたらおまえン家行くから」

「合点承知の助！！ ありがとっ」

そうして1時間後、私たちは待ち合わせ場所のファミレスに向か  
つた。

道中ずっと黙り込んでいる飛鳥をほつといて、私はボロがでない  
か今日の会話をシミュレーションする。

「久しぶり～。これが私の彼氏よ うふ 」

「…………キモツ」

何か聞こえたけど潔く割愛。

「さあ～着いた着いた！」 ……席を探すのに夢中な私は気づかない。

後ろの飛鳥が、苦しそうで哀しそうな表情をしていましたことなんて。

4人掛けのテーブルとイスに、向かいに友達の由香とその彼氏。  
左隣に飛鳥。

「え…てか、飛鳥くんじゅんどうが彼氏？」

「かかかかか彼氏じゅんどうからどう見ても」

「どうからどう見ても琉依と飛鳥くんは幼なじみでしょ。…本当に  
くつついたの？」

そこで由香は意味ありげに飛鳥に視線を送った。ところが…由  
配せ？

何を…私が信じられないのか…！

「…本當だよ」

飛鳥がもの凄く小さな声で囁く。

何か…家出たときより機嫌悪くない？

「じゃあ聞くけど…どうから告白したの？」

「オイ由香ーー！」

「ふつーそこ聞くーー？」

細かいところまで考えていなかつた私はそりやあもつ焦つた焦つた。

「俺だよ」

「え」

飛鳥？

「俺が告白した」

「…………ホントに？」由香の目が真ん丸くなる。

「飛鳥くん……頑張ったのね。オメデトウ！長かつたでしょ」

「はい？」由香さん？

「琉依鈍いもんね。16年間の片思いがようやく実つたんだあー」

「何の話？飛鳥が……片思い？」

そのまま由香と飛鳥（と、たまに彼氏くん）は会話を続ける。店を出るその時まで私はただ呆けていて、由香に声をかけられるまで気づかなかつた。

「琉依！」

「あ……なに？」

「飛鳥くん、大切にしなよ。あんたに16年間悪い虫がつかなかつたのは飛鳥くんのおかげなんだから」

それはつまり……今まで一度も彼氏ができなかつたのは、コイツのせいってこと……

「じゃーね」と別れの言葉を口にして、由香と彼氏は去つていつた。

とりあえず当初の問題は解決したらしく。

「けど。

「えーと……」

ちらり、と斜め後ろに飛鳥を見る。

「あんたつて私のこと好きだつたの？」

「…………」

衝撃の事実。

「……彼氏役頼まれて嫌だつたんじゃない？」

好きな相手に“ふりだけ”頼まれるなんて、絶対つらい。

「ただけど、他の奴に彼氏役やられるくらいなら俺がやる」

それだけ言つと、飛鳥はまたフイツ、とそっぽを向いてしまつた。

「……そつか…飛鳥は私のこと好きなんだ」

「……なんでだろう。嫌じゃない。

むしろ、嬉しい氣さえする。

「……どうしてくれんの？あんたのせいで私今まで独り身だつたんじやない」

照れ隠しに言つてみる。……なのに。

「いいんじやない？代わりに俺が手に入つたんだし」

飄々とコイツは…。

飛鳥の顔が近づいてくる。唇は、そのまま重ねられた。

……ああ。きっと私は、この直後には恋に落ちている。まさに今が、『マジで恋する5秒前』ってやつなのだろう。

“逃がさないから”

声が、聞こえた氣がした。

『あんたにも一応赤い血が流れてたんだ』

『……ケンカ売つてんの?』

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7153c/>

---

マジで恋する5秒前。

2010年10月8日14時53分発行